

麻生区片平で野菜づくりをはじめてから10年の月日が流れ、農作業の位置付けに変化がありました。

当初の目的は、障害の重い方の為の情緒安定の場
(園芸療法としての農作業の役割)



障害の重さに関係なく、力いっぱい働く喜びを感じ
ることができ、今では無くてはならない労働の場
(園芸療法から生産労働の場としての扱いとなる)



《これからの展望》 農作業を福祉施設の単なる日中プログラムとしての扱いから、福祉型農業という社会的な役割の獲得を目指す。その為に必要な交流取り組みをスタートさせる。(平成21年度より)

福祉施設の農作業を通し、地域へ貢献できる活動を模索しています



麻生生きごみ隊との交流風景 (生ごみの堆肥化プロジェクト)

- 福祉施設だからこそできる、市民交流・農環境への啓蒙活動などコミュニティー型農業の拠点としての取り組みを試みる。

ダンボールコンポストとコーヒー粕

環境を考え行動する会様より

ご紹介を受け、野菜クズや給食残渣を利用してダンボールコンポストで生ごみ肥料をつくっています。現在、4世代目となります。

コーヒー粕（コンポスト基材に使用）も、モスバーガー五月台店様より無料でご提供を頂いています。

生ごみ肥料の実力

富士通川崎工場様より、ご提供いただいている「のびのびグリーンたい肥」



はぐるまの農業活動を応援していただいています

麻生区区民会議委員の方のご紹介により、22年度より富士通川崎工場の食堂より出る食品残渣を加熱処理して一次発酵させた「のびのびグリーンたい肥」を毎月50kg(年間600kg)ご提供いただいております。

立派な肥料をいただけるようになりましたので、立派な野菜をつくり「富士通」様の環境保全・地域貢献活動を広くアピールしていきたいと思ひます。

新あさお生きごみ隊様からご提供いただいた「生ごみたい肥」



麻生区の学校や協力者さんの生ごみを回収して作った「生ごみたい肥」も毎年提供していただいております。お礼に、はぐるま工房の仲間達でたい肥の切り返しや混ぜ込み作業のお手伝いを行っています。支援していただくばかりではなく、お互いに役立てる交流を目指していきたいと考えております。

※ 別紙に収穫野菜写真があります。

生ごみ肥料で作った夏野菜たち

